

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 637 号	氏名	川口 (藤本) 洋子
学位審査委員	主 査	工藤 崇	
	副 査	下川 功	
	副 査	江口 晋	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、現在も未だ確実ではない、妊娠中に偶然発見される卵巣腫瘍に対処する上で、MRI および超音波断層法による良・悪性鑑別がどの程度の確実性で診断でき、その後の方針決定に寄与することが出来るか検証したもので、目的は十分に妥当である</p> <p>2 研究手法に関する評価 妊娠中に発見された卵巣腫瘍を、超音波断層法および MRI の種々の撮像法によって評価できた症例を後方視的に検討し、画像パターンによって分類を行った。その上で、病理所見との対比を行い、画像パターンによる診断との一致率を検証しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で検証した結果、超音波断層診断では Dermoid cyst (類皮のう胞)を除く嚢胞性腫瘍の評価は容易であったが、最も頻度の多い Dermoid cyst の診断が非常に困難であった。一方、MRI では Dermoid cyst が正しく診断できたが、微少な悪性腫瘍を正しく指摘することはできず、術前診断には超音波断層診断法と MRI の併用が重要であるとともに、最終的には手術による評価が必要と考えられた。今後の婦人科腫瘍学研究と診療への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は産婦人科腫瘍学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			